1990/9/12　いまなか記

瀬尾・今中ロシア旅行（1990/8/22～9/6）メモ

8/22（水）夕刻、ほぼ予定通りモスクワ・シェレメチボ空港着。クルチャトフ研のセルゲイが出迎えてくれる。今にも降り出しそうな曇り空、今年のモスクワは天候不順で、雨・冷夏とのこと。クルチャトフ研ブズルコフの家（モスクワ高層アパート群の一角）で約３時間休憩、懇談。東京－モスクワの時差は５時間でかなり眠い。22:40発夜行寝台でミンスクへ（１コンパートメント４人、日本のＢ寝台相当か）。ミンスクの母娘と同室。

8/23（木）8:30ミンスク（人口150万、白ロシア共和国の首都）着。晴。ИЯЭ（Institute of Nuclear Energy)のボーリャとサーシャが出迎え。ホテル・プラネットへ。休憩、昼食。ホテルで50ドルを両替、280ルーブル。午後先の二人が再び来ホテル、打ち合せ。生活諸経費にということで１人138ルーブルずつくれる。キエフへのビザ申請のため科学アカデミーへ。帰途ミンスク中心街で下車、見物かたがた歩いてホテルへ戻る。ミンスクの治安は極めてよいとのこと。途中外貨ショップでハイネッケン10本、10.5ドル。ホテルのレストランで夕食、まずまず美味い。ロシアではロクなものは食えない、冷たいビールも飲めないのではと覚悟していたが、杞憂。（２人で8ルーブル、1ルーブル＝27円、大学教授の月給が500～600ルーブルか）。

8/24（金）９時過ぎ、ИЯЭのマイクロバスで、ミンスク郊外のИЯЭへ。所長室で、所長ソローキン副所長ユーリーらに我々の調査の内容と目的を説明。その後会議室で室長クラスの専門家６人から、ИЯЭのチェルノブイリ事故への取り組みの説明を受ける。白ロシアでは、10万人規模で高汚染地域からの移住計画が進められている。途中昼食、フルコースにワイン、コニャック。所員700人のうち200人がチェルノブイリに取り組んでいるとのこと。帰りぎわにИЯЭの研究炉（改造のため２年前から停止中）とアルファ分析室を見学。

8/25（土）ИЯЭのミーシャ、彼の息子バーボと一緒に、ミンスク郊外の対独戦メモリアルの村、ハティニへ。白ロシアでは人口1000万のうち230万が戦争で死亡。186の村が完全に消滅。ミンスクなどの多くの都市が壊滅。帰途、近くの森で測定、土壌サンプリング（0.084μSv/hr）。

8/26（日）午前中ホテルでのんびり、ホテル周辺を散歩、日本でいえば初秋の感じ。リンゴがあちこちで実っている。午後ミーシャがやってきて昼食、ゴフマンの手紙と本の話に関心を示す。白ロシアには最近ＩＡＥＡやＩＣＲＰの偉いさんがしばしば来て、放射能汚染などたいしたことない、と繰り返してるとのこと。

その後市内見物、自由市場、遊園地、植物園へ。

8/27（月）１０時過ぎ、白ロシア科学アカデミー副総裁ソルダートフを表敬訪問、ИЯЭのメンバーとコレシコ同席。その後ИЯЭへ。ロマノフスキーより土壌除染に関する技術情報を調べてくれるよう要請を受ける。昼食後、ガンマ・ベータ測定室を見学。事故直後はいろいろなサンプルを測ったが、現在はは主に土壌サンプルを測定しているとのこと。我々のスペクトロメータを調整。ゲイン調整の標準線源として、事故直後製造のミルク缶（Cs137:3.8kBq）を貸してくれる。

ボーリャの自宅に招待される。なかなかりっぱなアパート、郊外に敷地400平方メートルの別荘を持ってるとのこと。

8/28（火）7:00マイクロバスでモギリョフへ、ИЯЭから４人同行。１０時過ぎモギリョフ着、郡の次官を表敬訪問、郡の役人セルゲイが加わって昼食。１３時頃スラブゴルド（>40Ci/km^{2}の汚染地帯）着。ポケットサーベを持ってると、オバアチャンが寄って来て、ここは住めるか、と聞かれる。近くの農家の菜園で0.3μSv/hr。スラブゴルド20km西のザパリャニエ村（今年の３月最後の住民が移住した廃村）のリンゴ園で、2.4μSv/hr、土壌採取。少し西のクリコフカ村、マイクロバスを止めると村人が続々やってくる。ここは、今年中に移住しなければならない。えらい剣幕で役人に文句を言ってる（住民は移住に反対とのこと）。家畜、農作業のようすなし。村の廃屋脇で、2.9μSv/hr、土壌採取。チェルノブイリから250km離れているが事故直後は800～1500mR/hrあったとのこと。

サンプリング後、スラブゴルドの町長(?)招待の夕食、さらに別れぎわに、森の中でウォッカで乾杯。23:30頃ホテル帰着。

8/29（水）１０時頃ИЯЭ着。マレンチェンコから、毛髪中のウラン・プルトニウム分析について共同研究の提案書を受けとる。アルファ分析装置が必要らしい。ИЯЭが持っている土壌汚染データ（コンピュータ打ち出し）を拝見、非公開データなのでコピーは不可だが、打ち出しを１枚もらう。食品等のデータファイルも拝見。ホイニキ地区の村の牛乳で事故直後５月５日に、I-131：9μCi/l、Cs-137：0.63μCi/l、といった数字がならんでいる。白ロシア保健省の雑誌に興味深い論文が並んでいる（全ページ写真をとったが、手振れで失敗）。16:30頃ホテル

に戻る。サーシャの紹介で、17:00から１時間ほど、白ロシアエコロジー同盟・独立科学実務研究室のチュルキンと面談。大規模放射線モニタリングシステムを白ロシア共和国へ売り込もうという話らしい。18:00過ぎコレシコらと会食。コレシコ意気盛ん、ＴＭＩファンドのベーエーを白ロシアに招くとのこと。ユーリー持参のワインで乾杯後、22:00発夜行寝台でキエフへ。レバノンからの男子留学生、キプロスからの女子留学生のアベックと同室。

8/30（木）１０時頃キエフ（人口300万、ウクライナ共和国の首都）着。（ミンスク、キエフは、モスクワと１時間の時差。）晴、結構暖かそう。チェルノブイリ労働者同盟のボーバとスローバが出迎え。ホテル・キエフへ。２Ｆのレストランで昼食、同盟議長のティシケビッチ合流。３人とも事故当時原発で働いていたとかで、「カミカゼ」と自称。スローバは、昨年５月甲状腺ガンの手術を受けたとかで、首に手術痕、発声不良。

昼食後休憩したあと、１７時頃同盟事務所へ。放射能排出剤とやらをなめさせられる。やたらに甘い。放射線生物学研のムシシェンコ(?)現れる。ニワトリにI-131を投与した彼の実験の説明を長々と続け、瀬尾さんが閉口する。

8/31（金）１１時過ぎ、キエフ小児・産婦人科研のルキャノバ所長に面会。ヤコブレフ、ダシケビッチ、シザージャおよびジョン（シエラレオネからの留学生、通訳として同席）。ルキャノバからチェルノブイリの影響に関する全体説明を受ける。最近ナロージチ地区で、奇形、妊婦の貧血・中毒症、子供の病気が増えている、チェルノブイリ事故では、現在も被曝が継続しており、広島・長崎とは違うとのこと。ダシケビッチが、１２月にレニングラードで開かれるチェルノブイリ事故影響に関する学会の予稿をくれる。

夕方同盟の事務所へ、日程打ち合せ。土曜日曜は原発の事務が休みなので、30km圏内（ゾーン）には入れないとのこと。とくにゾーンに入る必要はなく、周辺でサンプリングすればよいので明日出かけることにする。（同盟には車がなく困っている、貴方がたはどれくらい援助するのか、という話が出る。）

9/1（土）１１時過ぎ、同盟が調達してきた車でチェルノブイリへ。ティシケビッチ、ラリーサ同行。雨が降り出すが途中で止む。２時間あまりで、30km圏（ゾーン）の検問所へ着く。土曜で事務が休みなのでゾーン内には入れないとのこと。検問所見物（草地で、0.04mR/hr）の後、数100m傍の松林脇で測定・サンプリング（0.39μSv/hr）。キエフへの帰途、検問所から19kmの荒れ地で測定・サンプリン

グ（0.23μSv/hr）。47kmの村の農家横で測定・サンプリング（0.087μSv/hr）。この村は監視区域で毎月１人当り50ルーブルの手当が出てるとのことだが、農耕や牧畜も行われている。

9/2（日）１１頃から市内観光、自由市場、ウラジミル寺院、黄金の門、聖ソフィア。同盟の諸氏を招待して１４時ころからホテルのレストランで会食。キエフ外国語大学の日本語の先生ナターシャが通訳として同席。（ラリーサにモスクワへの汽車とホテルの手配を頼んであったが、まだのよう。）６人で40ルーブル。

休憩後１８時過ぎに同盟事務所へ。昨日の車代等謝礼として100ドル。瀬尾・今中の同盟への個人的なカンパとして100ドルを同盟に渡し、それぞれの受領証をもらう。ラリーサ手配の切符でシェフチェンコ記念アカデミー劇場でバレー見物。

9/3（月）10:30頃、放射線医学センター（チェルノブイリ事故後、中央政府によって作られた研究所）を訪問。副所長ピャタク、ツベトコーワ、ロッシと面談。日本の放医研などと緊密な関係にあるようす。1988年にキエフで開かれたコンファレンスのプロシーディングをくれる。今年の６月に東京で開かれた会議での「重要な影響は観察されていない」という報告について質問するが、データの詳細はプロシーディングで報告する、詳細を説明してる時間はない、とかわされる。センターの定期報告は来年始めぐらいに出すとのこと。ロッシの案内でセンターを見学。データ整理、線量評価などかなりシスティマティックに取り組んでいるもよう。広島・長崎の放影研の役割を担うものと思われる。

ホテルに戻り昼食後、ナターシャと３人でドニエプル河畔の林を散歩しながら同盟の事務所へ向かう。途中２ヶ所で測定、Cs-137が若干認められる（0.13、0.096μSv/hr）。事務所について汽車の切符をもらうがホテルの予約はまだ、とのこと。ティシケビッチから、モスクワでの連絡相手の電話番号だけ教えて貰って退散。20:20発夜行寝台。中年サラリーマン風２人と同室。

9/4（火）9:20モスクワ・キエフ駅着、小雨、気温は10度そこそこ。駅構内で一段落後、電話をするがホテルは未定。１時間後再度電話すると、相手の所まで来いというので、とりあえずタクシーで指定のメトロの駅まで行き、電話して迎えに来させる。歩いて５分ほどの事務所に着くと、なかなか立派な建物。相手の素性を聞くと、ソ連原子力産業省の支部とのこと。あっけにとられるがジタバタせず。休憩後マイクロバスでクレムリン傍らのホテル・ロシアへ。16:30頃ようやく落ち着く。夕食に、21階のレストランに行くと閉まっていたが、ウェイターに呼び込

まれて、１人10ドルで食べ放題飲み放題キャビア付き、と持ちかけられる。ミンスク、キエフに比べモスクワは何となくスサンでいる風。レストランの味も落ちる。

9/5（水）雨、最高気温12～13度の予報。ホテルの支払い（シングル２部屋２泊で450ドル）。タクシーを予約できなかったので、メトロ、バスを乗り継いでモスクワ市はずれのクルチャトフ研へ、11:10着。正門傍のゲストハウス(?)でボロボイ、ブズルコフと面談。チェルノブイリ４号炉跡の現状について説明を受ける。写真、別刷をもらう。Cs-137放出量は、残存量の見直しに基づいて最近30%に再評価されたとのこと。１０月のブリュッセルのコンファレンスで報告する。先に（8/22）にブズルコフに依頼していた土壌汚染データについては、担当の研究所に直接請求するようアドレスを教えてくれる。

昼過ぎホテルに戻り昼食後、外貨ショップで土産などを物色。夕刻、ИЯЭのミーシャと連絡とれる（彼は出張でモスクワ滞在中）。

9/6（木）ロシア最終日、曇時々晴、朝一番にホテル前の草地でスペクトル測定、Cs-137は認められず。10:30ミーシャ来ホテル、モスクワ見物に。赤の広場のレーニン廟でレーニンのミイラと対面。

15:00ホテルで予約のタクシーで空港へ（10ルーブル）。残りのルーブルをドルに代える（１ドルと小銭少々）。19:05定刻離陸。